

科目名	日本史概説		
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	古代から幕末・維新への日本史の流れを史料に基づきながらたどっていく。	
	到達目標	自国の歴史について基本的な理解を得、国際社会の中で解説できるようになる。	
授業計画	(1) イントロ (2) 古代から中世へ (3) " (4) 戦国時代から近世へ (5) " (6) " (7) 幕末にいたる江戸時代の史話 (8) " (9) " (10) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (11) " (12) " (13) 西南戦争後の殖産興業 (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	配布プリントを前もって読んでおくこと。	
	事後学習	配布プリントの精読。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを配布する 【参】 宮地正人編『日本史』世界各国史1 山川出版社 2008年		
成績評価方法と基準	<基準> 時代の流れ、大要が理解できているかを判断基準とする。 <方法> レポートと受講態度で判断する。		
備考	年表、歴史地図必携。 社会人の聴講、歓迎。		

科目名	外国史概説		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、概要を説明できるようになる。	1
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会や異なる文化について、基本的な知識を獲得する。	1
科目概要	授業内容	世界で最初の産業革命を経験し、19世紀にはイギリス帝国として世界の諸地域に大きな影響を与えたイギリスの歴史を通じて、近現代世界史を概観する。	
	到達目標	イギリス帝国の歴史を概観することで、国境を越えた歴史的関係を理解することができるようになる。帝国の歴史が現代世界に残した影響を踏まえたうえで、現代社会を捉えることができるようになる。	
授業計画	(1) 「イギリス」とは何か?—4つの地域と帝国の「遺産」 (2) 近代イギリスの起点 (1) —宗教改革と二つの「革命」 (3) 近代イギリスの起点 (2) —帝国の形成 (4) 「イギリス国民」の誕生—連合王国の成立 (5) アメリカの独立と帝国の再編 (6) 産業革命と近代社会の成立 (7) ヴィクトリア期のイギリス社会 (8) イギリス帝国とアジア—アヘン戦争とインド (9) 世紀転換期のイギリス帝国 (1) —アイルランド自治問題 (10) 世紀転換期のイギリス帝国 (2) —南アフリカ戦争と帝国主義 (11) 第一次世界大戦とイギリス連邦の成立 (12) 第二次世界大戦とイギリス帝国—衰退への序章 (13) 脱植民地化の時代 (14) 帝国からヨーロッパへ?—イギリスとEU (15) 帝国支配が遺したもの—多文化社会の「苦悩」と共存への道		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・時折小テストを実施するので、毎回配布されるレジュメを見直して理解しておくこと。授業中に紹介された参考文献を読むこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。授業中にレジュメと資料を配布する。 【参】 川北稔/木畑洋一編『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣アルマ 2000年 ISBN4641121052、他、適宜紹介		
成績評価方法と基準	<基準>	授業で取り上げた近現代イギリス帝国史の基本的な事項が理解できており、論理的に説明ができていれば合格とします。	
	<方法>	試験を実施します。成績評価は期末に実施する試験が60%、受講態度を40%とし、受講態度は時節実施する小テストの結果、及びアンケートや感想文の提出状況から評価します。	
備考			

科目名	文化史概説Ⅱ		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、概要を説明できるようになる。	1
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会や異なる文化について、基本的な知識を。	1
科目概要	授業内容	近現代イギリス史、イギリス帝国史を題材に、近代化や都市化と文化との関係、宗教、階級、人種、ジェンダー、エスニシティと文化との関係を歴史的に検討する。	
	到達目標	イギリスを事例に、近代社会が形成されていく過程を知ることで、社会の諸制度や異文化を深く理解できるようになるとともに、現代社会や自文化を客観的にとらえる視点を身につける。	
授業計画	(1) 文化史とは何か (1) (2) 文化史とは何か (2) (3) 宗教とイギリス社会 (4) 「われら失いし世界」ー工業化以前のイングランド社会と歴史人口学 (1) (5) 「われら失いし世界」ー工業化以前のイングランド社会と歴史人口学 (2) (6) ジェントルマンであることーヴィクトリア期の価値規範 (7) イギリス史におけるチャリティと社会福祉 (1) (8) イギリス史におけるチャリティと社会福祉 (2) (9) 紅茶と砂糖ー帝国と食文化 (10) 余暇の成立と大衆娯楽ー旅行と博覧会 (11) ジェンダーからみるイギリス近代 (1) (12) ジェンダーからみるイギリス近代 (2) (13) 教育と子供 (14) 言語と帝国主義 (15) 帝国が遺したものー多文化社会と歴史認識		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に紹介された参考文献を読むこと。 ・時折小テスト(論述)を実施するので、授業で配布したレジュメ、資料を見直して理解しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は使用しない。授業中にレジュメと資料を配布する。	
	【参】	井野瀬久美恵編『イギリス文化史入門』昭和堂 1994年、ISBN4812294193 他適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>	文化とは何かという問題、近代社会の特質、階級、人種、ジェンダー、エスニシティの問題について理解できており、それらについて自分なりに考えをのべることができていれば合格とする。	
	<方法>	期末に出題するレポートが60%、受講態度を40%とする。受講態度は、時折実施する小テスト(論述式)の結果や、授業中に実施するアンケートや感想文の提出状況で評価する。	
備考			

科目名	社会史概説 I		
担当者	鮫島 俊秀 / SAMESHIMA, Toshihide		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、概要を説明できるようになる。	1
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する	日本と外国の歴史と地理について、概要を説明できるようになる。	1
科目概要	授業内容	我々の生きている現代は人類の様々な営みの上に築かれたものである。毎回切り口となるテーマを変えて、生命の誕生から現代までの人類の軌跡を辿っていく。	
	到達目標	過去から現在までの人類の軌跡を学ぶことにより、将来良き市民として、社会及び人類の未来に貢献できるに足る歴史的思考力及び判断力を養う。	
授業計画	(1) ガイダンス、人類と社会の誕生① (2) 人類と社会の誕生② (3) 日本人はどこから来たか① (4) 日本人はどこから来たか② (5) 日本人はどこから来たか③ (6) 文字・言葉・恋の「うた」 (7) 芸能を通して世の中を観る (8) 戦国時代を題材に二つ (9) 日本の「はじっこ」から観た幕末 (10) 宗教を通して世の中を観る (11) 朝鮮半島の話 (12) あるスポーツの誕生と伝播 (13) 「事実」と「真実」について① (14) 「事実」と「真実」について② (15) 続・芸能を通して世の中を観る		
自学自習	事前学習	日々発刊される新聞を読む事を勧める	
	事後学習	講義を聴き、興味がわいた事項について各人のやり方で知識を深めることが望ましい	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義時に配布するプリントを用いる 【参】 参考文献は特に指定しない。		
成績評価方法と基準	<基準> 単なる知識の暗記ではなく、歴史的思考力及び歴史的判断力がそれぞれのレベルで身についたと認められる者は合格とする。 <方法> テスト60%、受講態度20%、毎講義ごとのミニレポート20%		
備考			

科目名	社会史概説Ⅱ		
担当者	田村 省三 / TAMURA, Shozo		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、概要を説明できるようになる。	1
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する	自然・社会・考古・地域などに関する諸学問の概要を説明することができるようになる。	1
科目概要	授業内容	南九州を長年統治してきた島津氏の歴史をたどることにより、南九州の歴史・文化を学ぶ。中世から近世に至るまでひとつのまとまった地域を統治し続けた大名家は稀であり、それだけに南九州は内政面・対外面・文化面のいずれにおいても他と異なった特色を持っている。また、南九州の地理的な環境もこれを促進した。日本史のみならず、世界史の視点からも概説する	
	到達目標	南九州の歴史・文化を学び、中世から近代までの通史やその特色を理解する。	
授業計画	(1) 序論・海洋史観とみなみ九州 (2) 島津氏の発祥と薩摩入り (3) 南北朝と島津氏 (4) 総州家・奥州家の対立と冬の時代 (5) 薩摩の文化興隆－薩南学派－ (6) 南九州の統一 (7) 豊臣秀吉と島津氏－文禄検地の意味－ (8) 島津義久と義弘－関が原合戦をとおして－ (9) 島津氏と海外交渉史 (10) 近世大名としての島津氏 (11) 大名家の文化と規式 (12) 徳川家と島津家の関係 (13) 島津重豪の開化政策 (14) 島津斉彬の近代化事業 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・日本史の流れを前もって学習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・教科書を読み返して理解を深めること。	
使用教材・参考文献	【教】 田村省三「尚古集成館－島津氏800年の収蔵－」尚古集成館 平成18年 【参】 川勝平太「文明の海洋史観」中公叢書 1997年 ISBN4120027155 ほか		
成績評価方法と基準	<基準> 南九州の歴史・文化の概要が理解できたものは合格とします。 <方法> 受講態度と終了試験(レポート)によります。(受講態度40%、終了試験60%)		
備考			

科目名	思想史概説		
担当者	新名 隆志 / NIINA, Takashi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する	自然・社会・考古・地域などに関する諸学問の概要を説明することができるようになる。	1
科目概要	授業内容	現代の具体的な社会問題を倫理的観点から考察することにより、自由、平等、責任といった倫理的な価値思想の伝統を学ぶ。またそのような価値思想を再検討・再構成することにより、社会問題に対する新しい見方を開く。	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会問題に対する倫理的アプローチを学ぶ。 ・自由、平等、責任などの倫理的価値思想の伝統を学ぶ。 ・価値思想や社会問題について自ら検討する力を身につける。 	
授業計画	(1) 講義のガイダンス (2) 平等と差別1 (3) 平等と差別2 (4) 平等と差別3 (5) 平等と差別4 (6) 平等と差別5 (7) 平等と差別6 (8) 感情の倫理学1 (9) 感情の倫理学2 (10) 感情の倫理学3 (11) 自由をめぐる諸問題1 (12) 自由をめぐる諸問題2 (13) 自由をめぐる諸問題3 (14) 自由をめぐる諸問題4 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	講義中に指示する通りに前もって教科書を読んでおくこと。	
	事後学習	講義内容に関係する教科書の部分や参考書を読み、自分で考察を深めること。	
使用教材・参考文献	【教】	新名隆志・林大悟編『エシックス・センス——倫理学の目を開け』 ナカニシヤ出版 2013年	
	【参】	講義中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>	講義内容をふまえた上で、倫理的価値の問題について自ら批判的検討を行い、主張を展開できること	
	<方法>	テストあるいはレポート70%、受講態度30%。 詳しくは講義中に説明する。	
備考			

科目名	日本史特論		
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などについて基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
	文献・資料を探索し活用する能力	史資料を読み解いて、その概要をつかみ取ることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	東アジア諸国との関連を重視しながら雄藩の歴史を講義する。	
	到達目標	近世・近代の諸論文の論点を理解できるようになる。	
授業計画	(1) はじめに (2) 史料に見る幕末・維新の雄藩と日本 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) おわりに		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	配布資料の精読。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを配布する。 【参】 原口泉ほか『鹿児島県の歴史』山川出版社 1999年		
成績評価方法と基準	<基準> 講義および拙者の内容(論点)が理解された場合を合格とする。 <方法> レポートおよび受講態度で判断する。		
備考	年表や歴史地図持参。 社会人の聴講、歓迎。		

科目名	歴史学特講 I		
担当者	田村 省三 / TAMURA, Shozo		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などについて基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	近代日本は、どのようにして始まったのか。近代とはどのような時代であったのか。現在数多くの研究者が多角的にこのテーマに取り組んでいる。一方、幕末の薩摩藩ではいち早く西欧の科学技術を受容し、製鉄・造船・紡績を中心とする「集成館事業」を推進し、日本の近代化のさきがけとなった。本講では「集成館事業」とその歴史的・文化的な背景や意味について学び、今日にのこされた近代化遺産についても学習する。	
	到達目標	「集成館事業」の歴史的・文化的背景や内容、その意味を学び、日本の近代化に果たした役割を理解する。	
授業計画	(1) 序論・世界と薩摩 (2) 植民地主義とアジア (3) 薩摩藩の蘭学受容 (4) 島津重豪と天保の財政改革 (5) 島津斉彬の近代化政策 (6) 鋳砲事業と砲台の建設 (7) 「昇平丸」と蒸気船「雲行丸」の建造 (8) 写真・ガラス・紡績事業 (9) 木村嘉平と近代活字 (10) 集成館事業を支えた人々ー蘭学者の系譜ー (11) 島津斉彬の死と薩英戦争 (12) 薩摩藩英国留学生とその後 (13) 薩摩の医学ー高木兼寛を中心としてー (14) 集成館と西南戦争 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・日本の近代史の流れを前もって学習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・教科書を読み返して理解を深めること。	
使用教材・参考文献	【教】 松尾千歳「島津斉彬の集成館事業」尚古集成館 平成15年 【参】 尚古集成館編「島津斉彬の挑戦」尚古集成館 平成15年ほか		
成績評価方法と基準	<基準> 「集成館事業」の概要と日本の近代史上の意義を理解したものは合格とします。 <方法> 受講態度と終了試験(レポート)によります。(受講態度40%、終了試験60%)		
備考			

科目名	歴史学特講Ⅱ		
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	中国の近現代史を通史的に学ぶ。現代の中国はどのようにして成り立ったのか、その過程を振り返り、世界の動向と関連づけながら、歴史の変遷を理解する。	
	到達目標	中国で起こった大きな出来事に関して、その流れを世界の動向とからめて理解することを目標とする。	
授業計画	(1) 中国史のとらえ方 (2) 清朝の斜陽 (3) 洋務運動、日中関係 (4) 辛亥革命へ (5) 第一次世界大戦と中国 (6) 国民党時代の到来 (7) 日中戦争 (8) 人民共和国の成立 (9) 社会主義建設 (10) 大躍進政策と文化大革命 (11) 改革開放政策 (12) 社会主義市場経済 (13) 台湾・香港 (14) 21世紀の中国 (15) 総復習		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業で学んだ重要な語句について、自分の言葉で解説できるようにする。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司著『新・図説 中国近現代史』法律文化社、2012年、ISBN978-4-589-03391-8		
成績評価方法と基準	<基準> 中国の近現代史に関する基本的な事項を知識として吸収して、自分の言葉でわかりやすく解説できれば合格とする。 <方法> 受講態度(50%)、期末試験(50%)。受講態度には授業中に実施する小テストを含む。		
備考			

科目名	歴史学特講Ⅲ		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会の問題や異なる文化的背景の人々と共存するという問題について、知識に基づき自ら考えることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	イギリス帝国を題材に、移民や外国人といった「周縁」から国家や国民、市民権といった事柄を歴史的に検討する。	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な事象について、専門的な知識に基づいて考えることができるようになる。 ・国境を越えたグローバルな観点から歴史を捉えることができるようになる。 ・近代という時代が現代社会に残した影響について理解し、考えることができるようになる。 	
授業計画	(1) 「日本人であること」とは？ (1) (2) 「日本人であること」とは？ (2) (3) 移民大陸、ヨーロッパ (4) 近代国家と国民—国籍法と市民権 (1) (5) 近代国家と国民—国籍法と市民権 (2) (6) 「イギリス人」とは誰のこと？—帝国と国籍法 (7) 19世紀までの「他者」—帰化法と外国人の処遇 (8) 自治領と1914年イギリス国籍法 (9) 第二次世界大戦とイギリス帝国 (10) 1948年国籍法の成立 (11) ウィンドラッシュ号来航の衝撃—戦後移民の始まり (12) 1962年英連邦移民法の成立 (13) Keep Britain White!—さらなる規制へ (14) 共存への道—多文化主義と人種問題 (15) 「いざりすらしさ」の行方		
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 	
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布するプリント、史料を読んで復習をしておくこと。 ・紹介された参考文献に目を通しておくこと。 	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。授業中にレジュメを配布する。 【参】 授業中に適宜紹介する。		
成績評価方法と基準	<基準> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、とりわけ近代における帝国と国籍法との関係が理解できていること、移民や難民、人種摩擦の問題、多文化主義の問題について、知識に基づいて自分なりに考えを論理的に述べられることができなければ合格とします。 <方法> <ul style="list-style-type: none"> レポート60%、受講態度40%で評価する。レポートについては、授業内容た参考文献を踏まえて自らの意見を論理的に述べているかを評価基準とする。受講態度については、授業中に課す小テストの結果を評価に勘案する。 		
備考			

科目名	歴史学特講Ⅳ		
担当者	藤内 哲也 / TONAI, Tetsuya		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会の問題や異なる文化的背景の人々と共存するという問題について、知識に基づき自ら考えることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	「水の都」ヴェネツィアは、地中海商業で繁栄する一方で、すでに同時代において「平穏なる共和国」として都市貴族層による支配や社会の安定を称賛されていた。本講義では、都市国家ヴェネツィアの歴史とたどりながら、とりわけ①ヴェネツィアの権力構造、②都市社会の国際性と外来者に着目し、ヴェネツィア史を彩る諸相について具体的に考察したい。	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェネツィアの歴史や社会の特質について理解する ・ヴェネツィアという視座から、ヨーロッパ・地中海世界の歴史や地域間交流のあり方について理解することができる ・歴史的な視点から、現代社会のさまざまな問題について考えることができる 	
授業計画	(1) 「平穏なる共和国」ヴェネツィア (2) 都市ヴェネツィアの誕生 (3) 海上帝国の建設 (4) ヴェネツィアの社会構造 (5) 「投票に基づく寡頭政」 (6) 十人委員会改革と寡頭政 (7) 「生まれによる市民」と書記局官僚層 (8) 書記局官僚層の台頭 (9) 国際都市ヴェネツィアの外来者 (10) 「ユダヤ人の都市」 (11) 近世ヴェネツィアの経済と社会 (12) 新貴族家系の成立と統合 (13) 「歓楽の都」：高級娼婦と賭博 (14) ヴェネツィア共和国の終焉 (15) まとめと展望		
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献を前もって読んでおくこと ・概説書などによって、ヨーロッパ史・イタリア史・ヴェネツィア史の知識を得ておくこと 	
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を復習し、分からない事項については調べておくこと ・講義中に紹介する文献を読み、授業内容の理解を深めておくこと 	
使用教材・参考文献	【教】	講義中にレジュメ・資料を配布する	
	【参】	<ul style="list-style-type: none"> ・藤内哲也『近世ヴェネツィアの権力と社会「平穏なる共和国」の虚像と実像』昭和堂、2005年 ・永井三明『ヴェネツィアの歴史 共和国の残照』刀水書房、2004年など 	
成績評価方法と基準	<基準>	到達目標および講義内容をふまえ、以下の2点について達成できたものを合格とします ①講義に関するキーワードについて正しく説明できる ②講義の主要なテーマについて論述することができる	
	<方法>	試験(100%)	
備考			

科目名	歴史学特講Ⅴ		
担当者	三浦 壮 / MIRA, So		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	1941年から1990年までの現代史について、主として経済の側面に焦点を当て講義する。	
	到達目標	現代日本経済の構造について、歴史的背景をおさえながら理解すること。	
授業計画	(1) 日本現代史・イントロダクション (2) 戦時経済1 (3) 戦時経済2 (4) 占領・復興期の日本経済1 (5) 占領・復興期の日本経済2 (6) 占領・復興期の日本経済3 (7) 高度成長1 (8) 高度成長2 (9) 高度成長3 (10) 石油危機と高度成長の終焉1 (11) 石油危機と高度成長の終焉2 (12) 繁栄の1980年代1 (13) 繁栄の1980年代2 (14) バブル経済とその崩壊1 (15) バブル経済とその崩壊2		
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	橋本寿朗他『現代日本経済』（有斐閣，2011年）〔図書館蔵〕	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 時々小レポートの形で宿題を課す。		
成績評価方法と基準	<基準> 現代日本経済の概要がつかみとれた者は合格とします。授業の3分の1（5回以上）を欠席した者は自動的に不可となるので気をつけること。 <方法> 試験80点＋小レポート20点，合計100点で評価する		
備考			

科目名	法思想史		
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などについて基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	西洋の法思想史を扱う。特に古代ギリシアのプラトンとアリストテレスの思想について解説する。	
	到達目標	(1) 西洋法思想史の概略に関する基礎的知識を習得する。 (2) プラトンとアリストテレスの考え方の違いについて基本的な事項を理解し、簡単に説明できるようにする	
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 法思想史とはなにか (3) 西洋法思想史のながれ① (古代～中世) (4) 西洋法思想史のながれ② (中世～近代) (5) 西洋法思想史のながれ③ (近代～現代) (6) 古代ギリシア哲学の概要 (7) プラトンの思想① (概要) (8) プラトンの思想② (イデア論) (9) プラトンの思想③ (国家論・正義論) (10) アリストテレスの思想① (概要) (11) アリストテレスの思想② (倫理学) (12) アリストテレスの思想③ (国制論) (13) プラトンとアリストテレスの思想の比較 (14) プラトンとアリストテレスの思想の今日的意義 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします (目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する)。詳細は講義時間に説明します。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを使用して行う予定である。但しテキストを指定する場合もある。 【参】 講義時間中に紹介する。		
成績評価方法と基準	<基準> プラトンとアリストテレスの思想の違いが説明できるかどうかを評価の基準とする。 <方法> レポートによって評価する。なお、講義の最後に「学習報告 (この講義を通じて学んだこと)」を提出し、講義で学んだことを自己確認する。		
備考	世界史 (西洋史) 及び西洋哲学史の基礎知識を必要とする。なお法学の専門的知識は特に必要ない。		

科目名	政治史		
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	この講義では、第二次世界大戦後の政治史を概観します。まず米国とソ連の冷戦について概説し、その後、冷戦下のアジアについて確認していきます。	
	到達目標	講義では、米ソの冷戦や、朝鮮戦争、ベトナム戦争などの経緯や背景を説明していきます。戦後政治史の全体をつかみ、日本との関係を考え、これからの国際政治を理解するための素地を作ることが、この講義の目的です。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 冷戦とは何か (3) 米ソ冷戦① (冷戦体制の確立) (4) 米ソ冷戦② (ベルリン危機) (5) 米ソ冷戦③ (キューバ危機とデタント) (6) 米ソ冷戦④ (核軍縮の動き) (7) 米ソ冷戦⑤ (キッシンジャー外交) (8) 米ソ冷戦⑥ (冷戦の終結とソ連崩壊) (9) アジアの冷戦① (冷戦下のアジア) (10) アジアの冷戦② (中華人民共和国の成立) (11) アジアの冷戦③ (朝鮮戦争) (12) アジアの冷戦④ (ベトナム戦争) (13) その他の地域紛争 (14) 冷戦後の世界 (15) 結論		
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。	
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。	
使用教材・参考文献	【教】 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年 【参】 佐々木卓也『戦後アメリカ外交史』有斐閣、2002年 五百旗頭真編『戦後日本外交史』有斐閣、1999年		
成績評価方法と基準	<基準> 講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。 <方法> 試験により評価します。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案是評価の対象外となり、単位は認定されません。		
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。		

科目名	地理学概論 I		
担当者	宗 建郎 / SO, Tatsuro		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する	自然・社会・考古・地域などに関する諸学問の概要を説明することができるようになる。	1
科目概要	授業内容	①地理学の基礎理論である立地論と②現代の問題への地理学的アプローチの二つのテーマについて、具体的な事例を交えながら解説します。	
	到達目標	①立地論の考え方を理解し、②地理学の問題を理解することで、社会に対する地理学的視点を身につけることを目標とします。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 新しい地理学 (3) 農業立地論 (1) 一チューネンの「孤立国」 (4) 農業立地論 (2) 一農業立地論の応用 (5) 工業立地論 (1) 一ウェーバーの工業立地論 (6) 工業立地論 (2) 一工業立地の変化 (7) 商業立地論 (1) 一クリスターラーの中心地理論 (8) 商業立地論 (2) 一定期市の立地論 (9) 立地論のまとめ (10) 多様な理論 (11) 人口地理学 (12) 農業地理学 (13) 工業地理学 (14) 歴史地理学 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 坂本英夫・浜谷正人編著『最近の地理学』大明堂、1985年。		
成績評価方法と基準	<基準> 立地論を説明できることと地理的問題を説明できることを基準とします。 <方法> 試験80%、受講態度20%で評価します。		
備考			

科目名	地理学概論Ⅱ		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などについて基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	都市の内部構造について既存の研究と具体的な事例の両面からお話しします。近代から現代の都市がどのように形成されるのかをとらえるための考え方についてお話しします。	
	到達目標	都市形成の理論を理解することで、都市の形態と社会の変化の関係について考えることができるようになることを目標とします。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 都市の内部構造 (3) 社会地区分析 (4) 因子生態分析 (5) 居住分化の理論—トレード・オフ (6) 居住分化の理論—バージェスとホイット (7) 居住分化の理論—D. ハーヴェイ1 (8) 居住分化の理論—D. ハーヴェイ2 (9) 都市形成の力学 (10) マルクス主義地理学と都市1 (11) マルクス主義地理学と都市2 (12) 人文主義地理学と都市 (13) インナーシティ問題 (14) ジェントリフィケーション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 P. ノックス・S. ピンチ『新版 都市社会地理学』古今書院, 2005年.		
成績評価方法と基準	<基準> 都市形成の理論と用語を説明できることを基準とします。 <方法> 試験80%, 受講態度20%で評価します。		
備考			

科目名	地誌学Ⅰ		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	文献・資料を探索し活用する能力	特定のトピックについて、文献や資料を探ることができるようになる。	1
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査とそのデータ整理の概要を説明できるようになる。	1
	豊かなコミュニケーション能力	人と協力して学ぶための基礎的知識を獲得する。	1
科目概要	授業内容	地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識、②地域調査の手法、③具体的事例の三つのステップで解説します。	
	到達目標	地誌学の基礎を理解し、地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。	
授業計画	(1) インTRODクシヨン (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土1 (4) 地域あるいは風土2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析1 (7) 地域調査法—多変量解析2 (8) 地域調査法—多変量解析3 (9) 地域調査法—空中写真 (10) 地域調査法—主題図作成1 (11) 地域調査法—主題図作成2 (12) 地域調査法—主題図作成3 (13) 地域を見る—日本と九州 (14) 地域を見る—鹿児島 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院、1986年。		
成績評価方法と基準	<基準> 地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。 <方法> 試験50%、授業内課題30%、受講態度20%で評価します。		
備考	授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。		

科目名	地誌学Ⅱ		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、概要を説明できるようになる。	1
	文献・資料を探索し活用する能力	特定のトピックについて、文献や資料を探ることができるようになる。	1
科目概要	授業内容	地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。	
	到達目標	地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。	
授業計画	(1) インTRODクシヨN (2) 文献に見る地域の姿1 (3) 文献に見る地域の姿2 (4) 文献に見る地域の姿3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GISとは (7) 統計による主題図の作成1 (8) 統計による主題図の作成2 (9) 統計による主題図の作成3 (10) 地図に見る地域の姿 (11) 地図をつくる1 (12) 地図をつくる2 (13) 地図をつくる3 (14) 地図・図表を用いたプレゼンテーション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	地域調査の手法について復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。 【参】 後藤真太郎他『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座』古今書院 2007年		
成績評価方法と基準	<基準> 文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。 <方法> レポート50%、授業内課題30%、受講態度20%		
備考	授業の中で実際に作業を行います。		

科目名	人間と自然環境		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理について、基礎的な知識を獲得するとともに、その知識に基づいて特定のトピックについて考えることができるようになる。	2
科目概要	授業内容	人間と自然環境の関わりについて、①自然環境のしくみ、②人間による自然の利用、③自然災害と人間活動とう観点からお話しします。	
	到達目標	人間と自然環境の関係について、自らの言葉で論述できるようになる。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 日本の地形・日本の気候 (3) 河川プロセス1 (4) 河川プロセス2 (5) 海岸地形1 (6) 海岸地形2 (7) 地形と土地利用 (8) 河川環境と人間の利用 (9) 土地利用の変化 (10) 山林と人間生活 (11) 自然環境と農業慣行 (12) 土地利用変化と自然災害 (13) 自然災害の事例1 (14) 自然災害の事例2 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 貝塚爽平『日本の地形』岩波新書、1977年。		
成績評価方法と基準	<基準> 自然環境のしくみと人間活動について、自らの言葉で論じることができることを基準とします。 <方法> 試験80%、受講態度20%		
備考			

科目名	考古学概説		
担当者	竹中 正巳 / TAKENAKA, Masami		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
	学芸員科目 / 選択 (法定科目名「考古学」)		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する	自然・社会・考古・地域などに関する諸学問の概要を説明することができるようになる。	1
科目概要	授業内容	考古学の学問的な特徴、研究方法について述べた後、人類誕生から近代までを時代ごとに考古学の面から解説する。実際の発掘調査の事例や古人骨から復元した当時の人々の顔かたちや体つき、生業、社会、文化、習慣なども紹介していく。	
	到達目標	過去に暮らした人々が残した遺構・遺物から人々の生活、文化、社会を学び、考古学の概要を広く理解する。	
授業計画	(1) 考古学の特徴 (2) 考古学の研究方法 (3) 人類誕生から旧石器時代まで (4) 人類誕生から旧石器時代まで (5) 縄文時代 (6) 縄文時代 (7) 弥生時代 (8) 弥生時代 (9) 古墳時代 (10) 古墳時代 (11) 歴史時代 (12) 歴史時代 (13) 古人骨研究に基づく日本人の成り立ち (14) 発掘調査の実際 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・授業で紹介する「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業で紹介した「参考文献・参考図書」を再度読むこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 適宜紹介する。		
成績評価方法と基準	<基準> 到達目標を踏まえて、考古学の概要ができたと確認できた場合、合格とする。 <方法> レポート (80点)、受講態度 (20点)。		
備考			

科目名	民俗学概説		
担当者	森田 清美 / MORITA, Kiyomi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
	学芸員科目 / 選択 (法定科目名「民俗学」)		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会や異なる文化について、基本的な知識を獲得する。	1
	豊かなコミュニケーション能力	人と協力して学ぶための基礎的知識を獲得する。	1
科目概要	授業内容	人びとの民俗伝承を比較して、それをダイナミックに分析することにより日本人のこころ、生活文化の変容を明らかにする。そのうえで、老人や幼児への虐待・いじめ、老人への詐欺、少子化、若者の就職難・医療・介護などの諸問題を解決していくことを目指す。	
	到達目標	日本人の伝統文化・こころを理解する。そのことにより、現代社会の国内、国外の諸問題解決への対処・対応の仕方を知ることが出来る。そのうえで社会へ貢献する意欲を身につける。	
授業計画	(1) 民俗学とは何か (現代社会における民俗学の視点と応用) (2) 環境民俗学 (家と村・町における民俗学・境界の民俗学も含む) (3) 人びとの生業 (農業・漁業・諸職、建築儀礼など・日本人のこころの出所を探す) (4) 年中行事の意味 (正月・盆・彼岸・講・入学式・学園祭など) (5) 誕生・成人式・結婚・厄年などの問題 (人生儀礼Ⅰ) (6) 生と死の意味を医療民俗学などを通して考える。(人生儀礼Ⅱ) (7) 呪術者である修験者と日本宗教 (民間信仰・民俗宗教Ⅰ) (8) 弾圧下でも信仰の火を消さなかった浄土真宗系の「隠れ念仏」 (民俗 宗教Ⅱ) (9) シャーマニズムと結びついた「隠れ念仏」 (民俗宗教Ⅲ) (10) 民俗芸能の保存 (太鼓踊・棒踊・神楽など伝統芸能の意味を探る) (11) 今でも生きている昔話と伝説・ことわざ (12) なぜ、現代社会でも妖怪と幽霊が登場するのか。 (13) 過疎の民俗・都市の民俗 (現代社会と民俗Ⅰ) (14) 医療と介護の民俗 (医療や介護を受ける側から) (現代社会の民俗Ⅱ) (15) 総まとめ (現代民俗学の行方と社会への貢献について)		
自学自習	事前学習	・「使用教材」・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味の分からない用語は、民俗学事典などで事前に調べておくこと。	
	事後学習	3回おきに、小レポートを課す。 授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。	
使用教材・参考文献	【教】	・授業ごとにプリント (小冊子) を次回の分まで配布する。	
	【参】	・福田アヅオ・宮田登『日本民俗学概論』吉川弘文館	
成績評価方法と基準	<基準>	平常点 (授業態度・出席 20点) ・レポート (20点) ・期末試験 (60点)	
	<方法>	総合的に、到達目標を踏まえて、民俗学の理解が深まり、民俗社会に貢献する心構えが出来た者を合格とする。	
備考	希望により民俗学巡検 (民俗芸能・民俗行事見学・民俗調査調査) を実施。積極的に参加して欲しい。		

科目名	歴史学演習 I		
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの知識に基づいて特定のトピックについて調査し、その結果を整理して、口頭で発表できるようになる。	3
	文献・資料を探索し活用する能力	文献や資料を整理し、その結果を口頭で発表できるようになる。	3
科目概要	授業内容	鹿児島(薩摩藩)に関する史料を読み、鹿児島及び日本の歴史の理解を深める。	
	到達目標	基本史料を読み、古文書の読解力を養うと共に、テーマにそくして発表できる能力を身につけることを目指す。	
授業計画	(1) はじめに (2) 近世前期史料(藩政史) (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) 近世中期史料 (11) " (12) " (13) " (14) " (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・配布プリントを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。	
	事後学習	配布プリントの精読。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを配布する。 【参】 『日本史史料』〔3〕近世 歴史学研究会編 岩波書店		
成績評価方法と基準	<基準> 演習への取組、発表、レポート作成等による。 <方法> 発表レポート等を総合的に判断する。		
備考	年表、歴史地図必携。 社会人、歓迎。		

科目名	歴史学演習Ⅱ		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理に関する特定のトピックについて調査し、その結果を整理して、口頭で発表できるようになる。	3
	文献・資料を探索し活用する能力	文献や資料を整理し、その結果を口頭で発表できるようになる。	3
科目概要	授業内容	小グループにわかれて、特定の歴史的イベントについてそれぞれ調査し、報告をし、議論をする。最終的には、関連論文を探し出し、その議論の枠組みを紹介する。	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 特定の事柄について、他の学生と協力しつつ、自ら文献や資料を探ることができるようになる。 手に入れた文献や資料を整理し、その内容を他の人に向けてわかりやすく報告できるようになる。 レジュメやパワーポイントを適切に作成できるようになる。 他の人の報告を聞いて、質問やコメントをし、議論できるようになる。 	
授業計画	(1) オリエンテーションとグループ分け (2) 参考文献を探すために (3) 課題決定 (4) 概要報告と討論 (5) 概要報告と討論 (6) 概要報告と討論 (7) 概要報告と討論 (8) 論文の探し方と読み方 (9) 論文の概要報告と討論 (10) 論文の概要報告と討論 (11) 論文の概要報告と討論 (12) 論文の概要報告と討論 (13) 論文の概要報告と討論 (14) 論文の概要報告と討論 (15) 論文の概要報告と討論		
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 報告に向けて、参考文献を収集し、読んで整理しておくこと。 報告に向けて、レジュメやパワーポイントを準備すること。 	
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 報告の際に指摘された課題や問題を解決しておくこと。 他の人の報告で理解できなかったところがあった場合は、辞書、文献などで調べておくこと。 	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。レジュメや資料は報告者が準備をする。 【参】 参考文献は自ら探すこと。		
成績評価方法と基準	<基準>	適切な文献や資料が収集できており、その内容を整理して報告できていること、他の人の報告の際に積極的に議論に参加できていれば合格とする。	
	<方法>	受講態度60%、期末に提出するレポート40%とする。受講態度は報告への取り組み方、報告の出来、議論への参加状況から評価する。	
備考			

科目名	歴史学演習Ⅲ		
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの知識に基づいて特定のトピックについて調査し、その結果を整理して、口頭で発表できるようになる。	3
	文献・資料を探索し活用する能力	文献や資料を整理し、その結果を口頭で発表できるようになる。	3
科目概要	授業内容	日本史研究の基本となる古文書や古記録等の基礎史料を読み、日本や郷土の理解を深める。	
	到達目標	基礎史料を読むことで、歴史の理解や楽しさを知ると共に、各自が研究テーマを設定し、発表できる能力を身につけることを目指す。	
授業計画	(1) はじめに (2) 幕末維新时期史料論読(「幕末政治思想を中心に」) (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) まとめ ～明治維新と近代日本～		
自学自習	事前学習	配布プリントを前もって読んでおくこと。	
	事後学習	配布プリントの復讐。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを配布する。 【参】 『日本史史料』〔4〕近代 歴史学研究会編 岩波書店		
成績評価方法と基準	<基準> 演習への取組、口頭発表、レポート作成等による。 <方法> 発表、レポート等を総合的に判断する。		
備考	年表・歴史地図必携。 社会人、歓迎。		

科目名	歴史学演習Ⅳ		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理に関する特定のトピックについて調査し、その結果を整理して、口頭で発表できるようになる。	3
	文献・資料を探索し活用する能力	文献や資料を整理し、その結果を口頭で発表できるようになる。	3
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの知識に基づいて特定のトピックについて調査し、その結果を整理して、口頭で発表できるようになる。	3
科目概要	授業内容	ニクソン米大統領の補佐官として、1972年の米中和解への道を準備したヘンリー・キッシンジャーの回想録を題材に、現代史における米中関係を検討する。グループ報告か、個別報告かは受講者数などに応じて検討する。	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の事項について自ら文献や資料を探し出し、その内容を整理し、口頭で報告できるようになる。 ・レジュメやパワーポイントといった報告資料を適切に準備できるようになる。 ・他の人の報告に対し、質問やコメントをし、議論に参加することができるようになる。 ・第二次世界大戦後のアメリカと中華人民共和国の歴史的関係について理解する。 	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 報告と議論 (3) 報告と議論 (4) 報告と議論 (5) 報告と議論 (6) 報告と議論 (7) 報告と議論 (8) 報告と議論 (9) 報告と議論 (10) 報告と議論 (11) 報告と議論 (12) 報告と議論 (13) 報告と議論 (14) 報告と議論 (15) 報告と議論		
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献を読んでおく。 ・報告に向けて、わからない用語や歴史的背景を辞書や文献などで調べておく。 ・報告に向けて、レジュメやパワーポイントを適宜作成する。 	
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・報告で指摘された問題点や課題を解決しておくこと。 ・他の人の報告で理解できなかったところを調べておくこと。 	
使用教材・参考文献	【教】	資料、レジュメなどは、報告者自身が作成すること。	
	【参】	塚越敏彦他訳『キッシンジャー回想録 中国』(上)(岩波書店、2012年)、ISBN978-4-00-02387408。他、参考文献は自ら探すこと。	
成績評価方法と基準	<基準>	・アメリカと中華人民共和国との関係、その歴史的背景を理解し、そのうえでわかりやすく報告できていること、他の人の報告に対し、積極的に議論に参加していれば合格とします。	
	<方法>	・受講態度60%、期末に提出するレポート40%。受講態度は授業中の報告内容、レジュメやパワーポイントなどの報告資料、議論への参加状況を総合して評価します。	
備考			

科目名	歴史学演習V		
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	鹿児島県と中国との歴史的関わりを探してみよう。20世紀前半、日本から中国東北地域へ満洲移民が海を渡った。鹿児島県も多くの移民を送り出した。その体験談が残されている。中国東北地方で出生して戦後鹿児島県に戻った帰国者にインタビューした「ある「中国残留孤児」の半生の記録」である。輪読しながら、その歴史的背景や日本と中国での生活体験を社会史として学ぶ。	
	到達目標	わたしたちの鹿児島県と中国、中国社会との関わりを見つめる。両地域にまたがる貴重な生活体験を通して中国社会史を学ぶ。新しく知った歴史的事実に対して自ら調べて発表し、互いに学び合うことが目標である。	
授業計画	(1) 導入 (2) 「中国残留孤児・婦人」とは何か (3) 鹿児島から満洲へ (4) 中国での生活 (5) 中国から鹿児島へ (6) 発表と質疑応答、意見交換① (7) 発表と質疑応答、意見交換② (8) 発表と質疑応答、意見交換③ (9) 発表と質疑応答、意見交換④ (10) 発表と質疑応答、意見交換⑤ (11) 発表と質疑応答、意見交換⑥ (12) 発表と質疑応答、意見交換⑦ (13) 発表と質疑応答、意見交換⑧ (14) 発表と質疑応答、意見交換⑨ (15) 総括		
自学自習	事前学習	・レジュメ作成、口頭発表の練習などの準備をする。	
	事後学習	・質問・意見を参考に、レジュメを修正して考察を深める。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 小栗実著「ある「中国残留孤児」の半生の記録」『鹿児島大学法学論集』41(1)、2006年。蘭信三著『満洲移民の歴史社会学』行路社、1994年。蘭信三編『「中国帰国者」の生活世界』行路社、2000年。		
成績評価方法と基準	<基準> キーワード、テーマにそって各自が調べる。見やすいレジュメを作成し、わかりやすく順序立てて発表することができる。また発表を聞いて質問・意見を述べるなど、考察を深めることができたものは合格とする。 <方法> 発表(50%)、受講態度(30%)、レポート(20%)。		
備考			

科目名	歴史学演習Ⅵ		
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	卒業論文にむけてテーマを絞り込んでいく。参考文献の収集やレジユメの作成を経て、各自のテーマと考察を発表し、互いに批評しあう。	
	到達目標	自らのテーマを設定して発表するという機会を通して論文作成の基本を学び、卒業論文へとつなげていくことが目標である。	
授業計画	(1) 導入 (2) テーマの設定 (3) 参考文献の収集の仕方 (4) レジユメの作り方 (5) 発表と相互批評、意見交換① (6) 発表と相互批評、意見交換② (7) 発表と相互批評、意見交換③ (8) 発表と相互批評、意見交換④ (9) 発表と相互批評、意見交換⑤ (10) 発表と相互批評、意見交換⑥ (11) 発表と相互批評、意見交換⑦ (12) 発表と相互批評、意見交換⑧ (13) 発表と相互批評、意見交換⑨ (14) 発表と相互批評、意見交換⑩ (15) 総括		
自学自習	事前学習	・レジユメ作成、口頭発表の練習などの準備をする。	
	事後学習	・質問・意見を参考に、レジユメを修正して考察を深める。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 『中国農村慣行調査』など、授業中に指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> テーマを決めて、見やすいレジユメを作成し、わかりやすく順序立てて発表することができる。また発表を聞いて質問・意見を述べるなど、考察を深めることができたものは合格とする。 <方法> 発表(50%)、受講態度(30%)、レポート(20%)。		
備考			

科目名	地域環境演習		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査、データ整理の結果から内容を把握し、口頭で発表できるようになる。	3
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を口頭で発表できるようになる。発表に基づいて議論ができるようになる。	3
科目概要	授業内容	本演習は野外に赴き、自然環境を体感することを目的としています。受講者は論文を読み、課題を設定し、事前調査を行った上で巡見当日に現地で発表と調査を行い、それをまとめます。	
	到達目標	①野外巡見で精力的に生き生きと活動できること、②文献調査を行いまとめることができるようになること、③現地調査を行い、口頭発表できるようになることを目標とします。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 受講者による論文紹介① (3) 受講者による論文紹介② (4) 事前調査① (5) 事前調査② (6) 事前調査③ (7) 調査資料作成 (8) 巡検① (9) 巡検② (10) 巡検③ (11) 巡検④ (12) 巡検⑤ (13) 受講者による口頭発表① (14) 受講者による口頭発表① (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。	
	事後学習	・必要な作業、調査を行うこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 参考文献は授業中に適宜紹介します。		
成績評価方法と基準	<基準> 内容よりも受講生のやる気と成長度合いを重視して評価します。 <方法> 論文発表20%、事前調査20%、巡見参加20%、口頭発表40%を目安とします。		
備考	授業の進展に応じて内容を修正しながら進めていきます。		

科目名	地誌学演習Ⅱ		
担当者	宗 建郎 / SO, Tatsuro		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	文献・資料を探索し活用する能力	史資料を読み解いて、その概要をつかみ取ることができるようになる。	2
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外で計測・調査を行い、そのデータを整理できるようになる。	2
	豊かなコミュニケーション能力	人と協力して調査を行うことができるようになる。	2
科目概要	授業内容	本演習は地域調査の実践を通じて地域を理解する能力を向上する事を目的とします。そのため受講者は論文を読み、課題を設定し、事前調査を行った上で巡見当日に現地で発表と調査を行い、それをまとめます。	
	到達目標	①野外巡見で精力的に生き生きと活動できること、②文献調査を行いまとめることができるようになること、③現地調査を行い、口頭発表できるようになることを目標とします。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 受講者による論文紹介① (3) 受講者による論文紹介② (4) 事前調査① (5) 事前調査② (6) 事前調査③ (7) 調査資料作成 (8) 巡検① (9) 巡検② (10) 巡検③ (11) 巡検④ (12) 巡検⑤ (13) 受講者による口頭発表① (14) 受講者による口頭発表① (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。	
	事後学習	・必要な作業、調査を行うこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 参考文献は授業中に適宜紹介します。		
成績評価方法と基準	<基準> 内容よりも受講生のやる気と成長度合いを重視して評価します。 <方法> 論文発表20%、事前調査20%、巡見参加20%、口頭発表40%を目安とします。		
備考	授業の進展に応じて内容を修正しながら進めていきます。		

科目名	民俗学演習		
担当者	町 泰樹 / MACHI, Taiki		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	番号
	豊かなコミュニケーション能力	人と協力して調査を行うことができるようになる。	2
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの知識に基づいて特定のトピックについて調査し、その結果を整理して、口頭で発表できるようになる。	3
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査、データ整理の結果から内容を把握し、口頭で発表できるようになる。	3
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会へ参加し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢をもって調査を行うことができるようになる。	3
科目概要	授業内容	本演習では、学生が主体的に民俗事象の調査・研究を行えるようになることを目的としています。 そのために、民俗調査に必要な「読む・見る・聞く」、そして「書く」という4つの能力を、文献の購読や観察実習を通して体系的に修得してもらいます。実際に民俗行事の巡検を行い、それらの力を実地で活用することを求めます。 同時に、関心のある民俗事象について、調べ物学習を行い、その成果を授業中に発表してもらいます。これにより、主体的に学習する力を獲得させたいと考えています。	
	到達目標	学習者は、文献の検索および引用の方法について学び、学術的な記述ができるようになる。 学習者は、観察実習を通して民俗調査における観察の重要性を理解するとともに、実際の民俗行事の巡検を通して、それに関する観察にもとづく記述ができるようになる。 学習者は、自らが設定したテーマに沿って調べ物学習を行うことで、主体的に学習し、課題を解決する方法を習得できるようになる。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 文献検索・ネット利用に関する講習と実習 (3) 文献のまとめ方に関する講習と実習 (4) 黎明館見学 (5) 個別テーマの学習計画発表会 (1) (6) 個別テーマの学習計画発表会 (2) (7) 観察実習 (1) ～日常の一コマを切り取る～ (8) 観察実習 (2) ～フィールドノート発表会～ (9) グループ・ワーク (1) (調べ物学習経過報告) (10) グループ・ワーク (2) (調べ物学習経過報告) (11) 民俗行事の巡検 (12) 演習発表 (1) (13) 演習発表 (2) (14) 演習発表 (3) (15) 教員による統括		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・専門用語については民俗辞典、意味の分からない用語については辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・八木透・政岡伸洋(編著)『図解雑学こんなに面白い民俗学』ナツメ社、2004年 (ISBN: 978-4-8163-3678-2)。 ・小野重朗『南九州の民俗文化』法政大学出版局、1990年 (ISBN: 4-588-00312-7)。その他の文献も適宜授業中に紹介します。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を利用します。	
	【参】	・八木透・政岡伸洋(編著)『図解雑学こんなに面白い民俗学』ナツメ社、2004年 (ISBN: 978-4-8163-3678-2)。 ・小野重朗『南九州の民俗文化』法政大学出版局、1990年 (ISBN: 4-588-00312-7)。その他の文献も適宜授業中に紹介します。	
成績評価方法と基準	<基準>	受講態度: 5回授業を欠席した場合は不合格とします。 レポート課題: 適切な文献の検索および引用の方法、ならびに民俗事象の基礎的な記述の仕方を習得していれば合格とします。 演習発表: 設定したテーマに関して調査をし、よく準備された発表を行えば合格とします。	
	<方法>	受講態度20%(事前連絡のない欠席は減点します)、レポート課題の評価60%、演習発表20%。	
備考	民俗学そのものに関する基礎的な知識がなくとも、自ら学ぶ意欲を持ち、その方法を習得したいと考えている学生は歓迎します。 その場合、調べ物学習のテーマについては、受講生の関心を優先できるように配慮します。		

科目名	日本語と社会		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	私たちが日常生活で使用する言葉は様々であるが、すべて社会とのつながりを持っている。そこで、社会生活において言葉がどのように使われているのか、具体的な人間の行動とのかかわりの中で、日本語と社会との関係を考えていくことにする。	
	到達目標	1. 社会言語学の意義を知り、言語を研究する姿勢を身につける。 2. 日本語の仕組みや、日本語と社会の関係について考えをまとめることができる。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 社会言語学とは (3) 属性とことば① (4) 属性とことば② (5) 言語行動 (6) 言語生活 (7) 言語接触① (8) 言語接触② (9) 言語変化① (10) 言語変化② (11) 言語変化③ (12) 言語意識 (13) 言語習得 (14) 言語計画 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行うため、授業内容をよく復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 真田信治他『社会言語学』おうふう、1992年、ISBN 4273026023 【参】 岡本佐智子『日本語教育能力検定試験に合格するための社会言語学10』アルク、2008年、ISBN 4757414978		
成績評価方法と基準	<基準> 社会言語学の意義、内容が理解できていれば、合格とする。 <方法> 期末試験50%、小テスト30%、受講態度20%		
備考			

科目名	日本文学史 I		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	日本の古代から中世までの文学(古典)の流れを概観する。各時代の主要な作品を1つずつ取り上げて解説し、原文の一部を書写、音読、鑑賞しながら、文学の特質やジャンルについて理解を深める。	
	到達目標	1) 上代・中古・中世・近世・近代という時代区分を知る。 2) 主要な作品の成立時期・作者・内容を理解する。 3) 主要な作品の原文を正しく読み、書ける。	
授業計画	(1) 時代区分とジャンルについて (2) 古事記 (3) 万葉集 (4) 竹取物語 (5) 古今和歌集 (6) 蜻蛉日記 (7) 枕草子 (8) 源氏物語 (9) 和泉式部日記 (10) 大鏡 (11) 今昔物語集 (12) 新古今和歌集 (13) 平家物語 (14) ビデオ「平安貴族の生活」視聴 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読み、授業で取り上げられる作品の概略を理解しておくこと。	
	事後学習	・授業で出た原文の音読をし、暗唱できるようになる。 ・授業で出た作品の感想をまとめる。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを配布する 【参】 小山弘志編『日本文学新史』至文堂 1990年 岩波講座『日本文学史』岩波書店 1995年		
成績評価方法と基準	<基準> 主要な作品の時代区分・作者・内容を理解し、原文を正しく音読、書写出来れば合格とする。 <方法> テスト(70%)、提出物(20%)、受講態度(10%)		
備考	毎回、原稿用紙を持って来ること。		

科目名	日本文学史Ⅱ		
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	歴史・特徴・背景を理解して作品を読もうとする態度を身につける。	1
科目概要	授業内容	テキストを参照しながら近代日本文学史を概説する。各時代の代表的な作家、作品、思潮を解説する。	
	到達目標	近代日本文学史の流れを理解し、代表的な作家、作品を知る。	
授業計画	(1) ガイダンス 「近代/日本/文学/史」を考える (2) 近世文学と近代文学 (3) 硯友社の文学 (4) 日清戦争と文学 (5) 自然主義の文学 (6) 反自然主義の文学 (7) 耽美派の文学 (8) 白樺派の文学 (9) 私小説と心境小説 (10) 詩歌の近代 (11) プロレタリア文学 (12) モダニズム文学と文芸復興 (13) 戦時下の文学 (14) 戦後の文学 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。	
使用教材・参考文献	【教】 三好行雄編『近代日本文学史』有斐閣 1975 ISBN4-641-09795-X 【参】 年表の会編『近代文学年表』双文社出版 1993 ISBN4-88164-031-3		
成績評価方法と基準	<基準> 近代日本文学史に対する理解、関心が深められれば合格とする。 <方法> レポート60%、受講態度30%、コメントシート10% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。		
備考			

科目名	中国文学概説 I		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学の歴史・特徴・背景を説明できる。 ・歴史・特徴・背景を理解して作品を読もうとする態度を身につける。	1
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	古代から六朝時代までの中国文学史。但し中国の伝統的な意味での「文学」を、その担い手「士大夫」の活動という視点で講じる。	
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。	
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 「文学」とは何か (3) 士大夫と中国の伝統的書籍分類体系 (4) 『詩経』について (5) 儒家思想と文学との関係 1 (6) 漢代の賦 1 司馬相如「上林賦」を読む (7) 漢代の賦 2 揚雄 (8) 漢代の詩と五言詩の起源 (9) 三国時代の詩 1 (10) 三国時代の詩 2 (11) 「三国時代における文学の独立」 (12) 儒家思想と文学との関係 2 (13) 『文選』と「文」 (14) 『詩品』と『文心雕竜』 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 鈴木修次編『文学史』中国文化叢書5 大修館書店1967年 【参】 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書4 大修館書店1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店1987年		
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 <方法> 筆記試験60% 出席態度40%		
備考			

科目名	中国文学概説Ⅱ		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学の歴史・特徴・背景を説明できる。 ・歴史・特徴・背景を理解して作品を読もうとする態度を身につける。	1
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	中国文学概説Ⅰで採りあげられなかった中国古典の重要なジャンルについての講義。	
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。	
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 楚辞と屈原 1 (3) 楚辞と屈原 2 (4) 司馬遷と『史記』 (5) 正史の形式 (6) 『史記』司馬相如列伝を読む (7) 中国の叙事詩 1 (8) 中国の叙事詩 2 (9) 娯楽としての悲哀 (10) 中国の小説 1 「小説」とは何か (11) 中国の小説 2 志怪小説と志人小説 (12) 士大夫と詩 1 阮籍 (13) 士大夫と詩 2 陶淵明 (14) 士大夫と詩 3 顧炎武「詩は必ずしも人々皆作るにあらず」 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 鈴木修次編『文学史』中国文化叢書5 大修館書店1967年 【参】 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書4 大修館書店1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店1987年		
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 <方法> 筆記試験60% 出席態度40%		
備考			

科目名	書道史		
担当者	伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	書の歴史を時代別に区分し、古典を解説しながらその書道史の流れを捉える。	
	到達目標	三千余年にわたる書の伝統と歴史は、書写文字の簡略化と美化の連続であったといえる。日本に伝わった漢字を受容し和様化と仮名を完成した日本人の感性など書の魅力は尽きない。中国と日本の書の歴史を豊富な古典の資料を解説しながら、時代区分を越えて展開されてきた大きな書道史の流れを学習者が把握できるように授業を進めたい。	
授業計画	(1) 中国書道史 文字の起源と甲骨文字 (2) 中国書道史 金文と周代の書法 (3) 中国書道史 秦代の文字の統一と隷書への変化へ (4) 中国書道史 漢代の隷書と用筆美 (5) 中国書道史 草書・行書・楷書の萌芽 (6) 中国書道史 六朝の書と書聖 (7) 中国書道史 隋・唐の楷書 (8) 中国書道史 個性と開放の宗代 (9) 中国書道史 元・明・清の書法とその流れ (10) 中国書道史 帖学と碑学 (11) 日本書道史 漢字の伝来 (12) 日本書道史 奈良時代の書法と写経 (13) 日本書道史 平安時代と仮名の完成 (14) 日本書道史 その後の書道史と今後の書道 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業の初めに前回の授業内容の確認を行う。 ・前半に小レポートを課す。	
使用教材・参考文献	【教】 鈴木翠軒・伊東参州共著『新設 和漢書道史』日本習字普及協会1996年 【参】 藤原鶴来『和漢書道史』二玄社1927年		
成績評価方法と基準	<基準> 出席状況、レポート、受講態度など <方法> レポート70%、出席・受講態度30%		
備考	適宜補充プリントを配布する。		

科目名	英国の文化 I		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く説明することができる。	4
科目概要	授業内容	英国を支えてきた王室、政治、宗教、教育、マスメディア等の諸制度に焦点を当て、その歴史的背景や現在の姿を通して、英国の文化を総合的に考察する。	
	到達目標	英文資料を使って英国の諸制度について概略理解する。	
授業計画	(1) 英国概観 (2) 英国概観 (3) 王室 (4) 階級 (5) 国会 (6) 国会 (7) 司法 (8) 司法 (9) マスメディア (10) マスメディア (11) 宗教 (12) 宗教 (13) 教育 (14) 教育 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	学習した内容を復習し、重要事項、専門用語等を確認し、整理する。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料(英文) 【参】 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る 緑と石とゆとりの国イギリス』ISBN978-4-434-11728-2、UK in Japan (http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja)		
成績評価方法と基準	<基準> 上記諸制度の概要を理解し、説明できるようになった者は合格とする。 <方法> プレゼンテーション等授業貢献(40%)、終了試験(60%)。		
備考			

科目名	英国の歴史II		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く説明することができる。	4
科目概要	授業内容	英国の宗教行事、年中行事、食文化に焦点を当て、その歴史的背景や現在の姿を通して、英国の文化を総合的に考察する。	
	到達目標	英国の宗教、年中行事、食文化についてその内容と意義を概略理解する。	
授業計画	(1) 年中行事概観 (2) 年中行事概観 (3) ハロウィーン (4) ハロウィーン (5) ガイフォークスデイ (6) クリスマス (7) クリスマス／ホグマネイ (8) セントバレンタインズデイ (9) イースター (10) イースター (11) イースター／マザーズデイ (12) メイデイ (13) 食文化 (14) 食文化 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・学習した事項の内容と意義を復習し、専門用語等を整理する。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年 【参】 ISBN978-4-434-11728-2 UK in Japan (http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja)		
成績評価方法と基準	<基準> 上記諸行事の概要を理解し、説明できるようになった者は合格とする。 <方法> プレゼンテーション等の授業貢献(40%)、終了試験(60%)。		
備考			

科目名	米国の歴史と文化 I		
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。	
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。	
授業計画	(1) 『白鯨』(1956年版)鑑賞 (2) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (3) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (4) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (5) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (6) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (7) 『パイレーツ・オブ・カリビアンーブラックパールの呪い』鑑賞 (8) ディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (10) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (11) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (12) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (13) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (14) 『パイレーツ・オブ・カリビアン』との比較 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。	
使用教材・参考文献	【教】 Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl (ペンギン) 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 <方法> 筆記試験60%、会話テスト20%、発言20%。		
備考			

科目名	米国の歴史と文化Ⅱ		
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori		
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を精読、比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。	
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。	
授業計画	(1) 『パイレーツ・オブ・カリビアン―デッドマンズ・チェスト』鑑賞 (2) 『白鯨』の原文名場面精読(1) (3) 『白鯨』の原文名場面精読(2) (4) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (5) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (6) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (7) 『白鯨』(1998年版)鑑賞 (8) 前期の『白鯨』の授業についてディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (10) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (11) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (12) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (13) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (14) 『白鯨』との比較 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。	
使用教材・参考文献	【教】 Pirates of the Caribbean Dead Man's Chest (ペンギン) 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 <方法> 筆記試験60%、会話テスト20%、発言20%。		
備考			